

1. MICE 振興について

(1) 既存施設におけるお断り、機会損失

- 平成29年度におけるマリンメッセ、国際センター、国際会議場の利用申込のお断り件数は約90件発生している。
- MICE開催は地域への経済効果も大きく、お断りは重要な成長機会を失うものであり、この機会損失は約165億円/年となっている。

お断り件数
約90件/年



機会損失
約165億円/年

(2) ウォーターフロント地区（WF地区）におけるMICE開催の状況

- MICE施設の稼働率は約8～9割と非常に高くなっており、催事開催のお断りが生じている。

＜既存MICE施設の稼働率＞ [2017（平成29）年度]

施設名	マリンメッセ福岡	福岡国際センター	福岡国際会議場*	福岡サンプラッセ
稼働率	83.9%	90.4%	77.4%	82.0%

※福岡国際会議場は、主要なメインホール・多目的ホール・国際会議室の稼働率

- 福岡市では、WF地区や大学などで国際会議が多く開催されており、WF地区では参加者1,000人以上の大規模国際会議が年々増加している（24件<69日>/H29年）。
- MICE施設の年間利用者数は300万人を超え、市民をはじめ多数の来街者が訪れるエリアとなっている。

2. MICE 機能強化の基本的な考え方

(1) 目的・規模に応じた役割を有する既存施設

マリンメッセ（約15,000人収容）



展示場（展示面積約8,000㎡）
・大規模な展示会、コンサート、国際スポーツ等

国際センター（約10,000人収容）



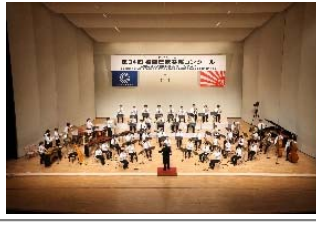
展示場（展示面積約3,500㎡）
・大相撲、中小規模の展示会、コンサート、企業個展等

国際会議場（約5,000人収容）



会議場
・国際会議、学会、集会等

サンパレス（2,322人収容<固定席>）



ホール
・コンサート、吹奏楽、講演等

(2) 課題

- ①既存施設の供給力不足と魅力向上
- ②コンベンションゾーンにおけるホテルや賑わい機能不足（WF地区における魅力不足）
- ③MICE施設間等の安全・快適な動線確保が課題
- ④博多駅・天神地区等との交通アクセスや交通混雑の課題



歩行者の横断による交通阻害

(3) MICE機能強化の考え方

＜基本的な考え方＞

- ①第1期計画としてのマリンメッセに続く、**第2期展示場等の先行整備**（展示面積約5,000㎡）
- ②文化・エンターテインメントを楽しめる**ホールの更新・機能強化**
- ③国際会議等に対応できる**質の高いホテルの誘致**、利用者や市民が楽しめる**賑わい・憩いの空間づくり**
- ④施設間を雨に濡れずに**安全・快適に移動できる歩行者動線の確保**
- ⑤利用者にとって使いやすい**交通広場や駐車場の確保**



平成29年12月 第3委員会報告資料（再整備の進め方）

MICE関連施設が一体的に配置された利便性の高い「オール・イン・ワン」の拠点形成 市民や来街者が文化・エンターテインメントを楽しめる場や海辺を生かした賑わいの創出



会議場・展示場・ホテル・賑わい機能等が一体的に整備された「オール・イン・ワン」のエリア実例（バンクーバー）



多数の来街者で賑わう海辺空間（シドニー）



第2期展示場等整備事業（イメージパース）

3. MICE 関連施設の計画概要

(1) 施設配置イメージ

① (仮称) WFホール

既存の福岡サンパレス大ホールを継承するホール機能

② 歩行者デッキ等

MICE 施設や駐車場等を結び、安全・快適に移動できる歩行者動線の確保

③ 環境整備等 (交通広場, 駐車場, ホテル等)

コンベンションゾーンの利便性を向上させる機能を確保

※第2期展示場<先行事業>

マリノメッセ福岡との一体的な利用も可能となる
第2期展示場 (大屋根広場含む)



(2) (仮称) WFホール

① 市民をはじめすべての利用者が快適に文化・エンターテインメントを楽しめるホール

- コンサートや吹奏楽などを快適に楽しめる, 文化・エンターテインメントの場を提供
- 開場待ちも屋内で快適に過ごせるよう, 十分な広さのエントランスホールの確保
- 高齢者や車椅子利用者, 親子連れも快適に楽しめる鑑賞環境の確保

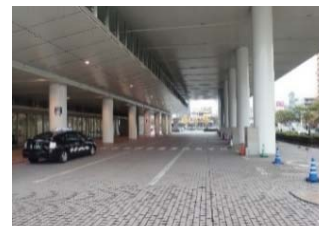
【ホール施設イメージ】



客席とガラスで区画された親子室

② 大規模会議や国際会議にも対応できる収容力と質を有するホール

- 九州の玄関口にふさわしい, 大規模MICE等に対応可能なホール (固定席2,500席以上<最大3,000席>)
- ゆったりとし快適に着席できる座席
- 国際会議等のVIP利用に配慮した出入口・セキュリティ



雨に濡れずに入館可能なエントランス

③ 周辺環境と調和した魅力的な海辺のホール

- 海辺を身近に感じるホールとして, 海が見えるホワイエや眺めのよい屋上テラスの確保
- 親水空間との調和を意識し, 海辺に接続するゆとりある歩行者動線の確保
- 地区の魅力向上に寄与する, 夜間の照明デザインへの配慮

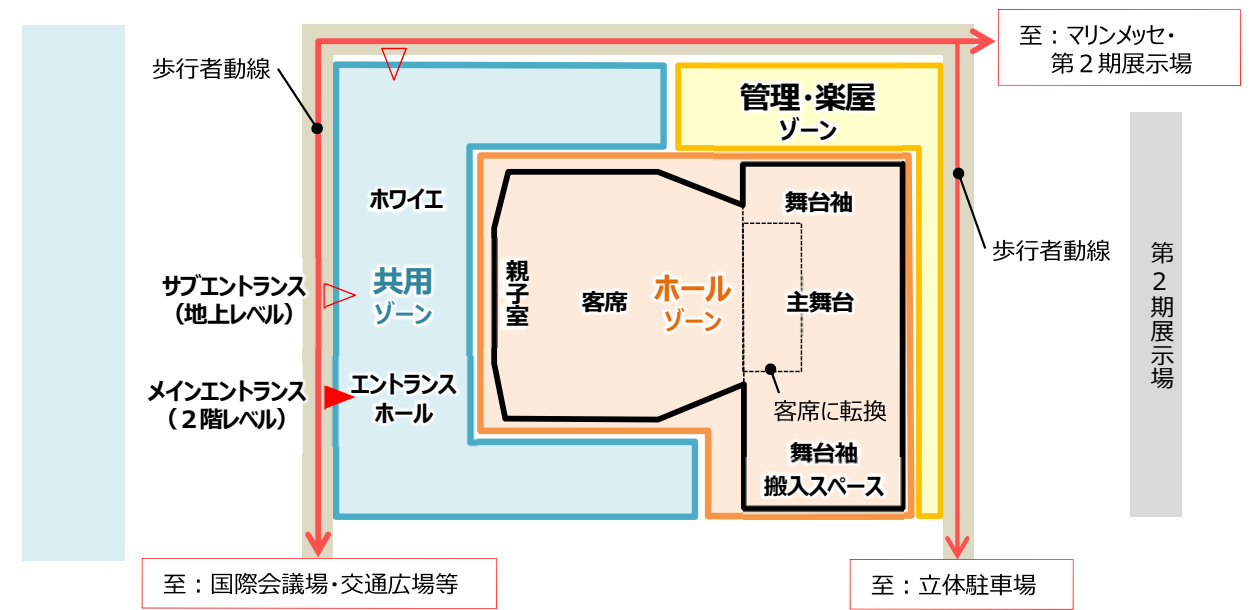


ホワイエから海への眺望

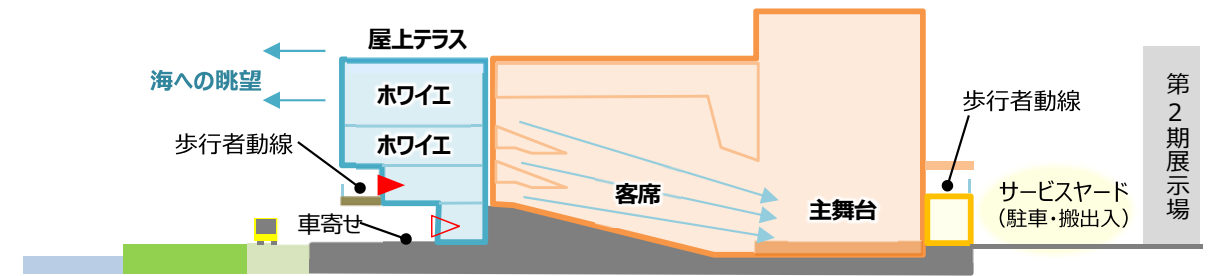
<施設概要>

- 延床面積: 約1万4千㎡程度を想定 (福岡サンパレス<ホール棟>と同程度)

ゾーン名	主な諸室	主な機能
共用 ゾーン	エントランスホール	・入場待ちに整列できる十分な広さ, 設備を確保
	ホワイエ	・来場者が休憩できる十分な広さ, 設備を確保 ・高齢者等に配慮し, エレベーター等を設置
ホール ゾーン	客席	・固定席2,500席以上 (仮設席を含め最大3,000席) ・3層構成を基本とし, 全席から主舞台が十分見渡せる形態
	舞台	・プロセニウム形式 ・舞台面・舞台設備は, サンパレスの機能同等を確保
	親子室	・乳幼児等とも一緒に親子が利用できる客席を確保
楽屋 ゾーン	楽屋	・多様な利用に適した様々な広さ, 設備を確保
	楽屋口	・セキュリティにも配慮した計画
管理 ゾーン	管理事務室等	・他のMICE施設との連携に配慮した設備等 ・倉庫, 機械室, 電気室等



平面イメージ (2階レベル)



断面イメージ

(3) 歩行者デッキ等

- WFホールの整備にあわせて, MICE施設や交通広場・駐車場等を雨に濡れずに安全・快適に移動できる歩行者ネットワークを形成する。 (幅員3~6m)

- 複数施設を一体利用する国際会議等での会場間移動や車両との交錯等に配慮し, 2レベルの歩行者動線を確保するとともに, 主要結節部においてエレベーター・エスカレーターを設置する。



歩行者デッキの整備イメージ

(4) 環境整備等

- 駐車場と交通広場**は、公共交通の利便性向上や自動車交通の円滑化を図るため、**天神・博多駅とのアクセス性が高いサンパレス用地に再配置**する。
- 駐車場**は、福岡サンパレス用地に約450台を確保し、あわせて多様な機能導入や広場空間等を確保するため、地下空間の活用や民間施設との**一体整備（合築）**も含めて検討していく。
- ホテル**については、大規模会議等での利用に対応する客室数（250室程度以上）やスイートルームを確保するとともに、バンケットやレストラン・カフェなどの施設を有した質の高いホテルの誘致を目指す。

■ 駐車場・交通広場等の配置イメージ

まちと海、中央・博多ふ頭をつなぐエントランスゾーン
・交通・回遊拠点 ・賑わい・交流の創出 ・魅力ある景観形成



※交通広場の概要
臨時バス乗降場：2バース→4バース
タクシー乗降場：3バース→4バース

4. 整備手法

- M I C E 施設の整備については、施設整備等に係る市の財政負担の軽減やサービス水準の向上等を図るため、P F I 方式など民間活力を生かした事業手法について、検討を進めていく。

5. 運営手法

(1) 現況

- 現在、マリンメッセ・国際会議場は指定管理者制度、国際センター（財団が整備・所有）は自主運営により、福岡コンベンションセンター（以下、F C C）が一体運営し、高い稼働率等を実現している。

(2) 運営権（コンセッション制度）の導入

- 指定管理者制度では5年間毎の契約のため、長期的な視点での運営等に課題も有しており、現在の所有や運営形態を踏まえつつ、事業者による柔軟な運営を可能とする**運営権制度の活用**を基本に進めていく。
- 事業期間については、M I C E 誘致の強化やサービス向上に向けた投資等の観点から、**長期間での設定を検討**していく。

長期の事業期間	・中長期の視点に立った M I C E 誘致 、 専門人材の育成 、 誘致人脈の形成 ・サービス・競争力向上のための 投資
事業者の裁量拡大	・複数施設の一括利用に応じた 料金・サービスの実施 ・事業環境の変化やニーズに応じた 料金・サービス

(3) F C Cによる一体運営と経営体制の強化

- これまで、F C Cが各施設を一体運営することで、市の施策に沿ったM I C E 開催や大規模学会など複数施設での円滑な利用を可能とし、引き続き、**F C Cを基本に既存施設と新設施設の一体運営**を図る。
- また、事業環境の変化やニーズに応じた柔軟な対応や効率的な運営等を目指し、**経営体制の強化**について検討していく。

6. 第1ステージの概算整備費、経済効果

(1) 概算整備費

○WFホール	約120億円	○歩行者デッキの整備	約20億円
○駐車場（地下）	約50億円	○交通広場等	約33億円

※類似施設の事例等を参考に、現時点での想定規模を基にした官民協働事業の場合の試算。
※駐車場は、一般的な地下式駐車場を想定した場合の整備費であり、今後、施設計画の具体化等を踏まえ精査していく。
※上記のほか、第2期展示場・立体駐車場（先行施設）の整備費は、約92億円。

(2) 経済効果

- 第2期展示場等の整備により、**お断りによる機会損失の解消**に加え、**約600億円/年の経済波及効果**が期待される。
※公益財団法人九州経済調査協会による試算
- M I C E を通じた**地域経済の活性化**を図るとともに、**ビジネス・イノベーションの機会創出等**に貢献していく。

機会損失
約165億円/年

経済波及効果
約600億円/年



7. 今後の進め方について

- M I C E 関連施設については、基本的な公募の条件等を示した「基本スキーム（素案）」の作成に向けて、施設計画や事業手法など検討を深化させていく。
- 整備手法については、施設整備等に係る市の財政負担の軽減や、サービス水準の向上等を図るため、今後、民間活力を生かした事業手法について検討していく。
- 運営手法については、2021年の第2期展示場の供用開始に向けて、M I C E 施設の所有形態等を考慮しながら、運営権の対象施設や運営体制等について検討していく。また、既存施設について、今後、修繕費の増加等も想定され、運営者との適切な役割分担や利用料金等について検討していく。

<今後の主な流れ（予定）>

